

令和3年 第1回 北海道議会定例会〔一般質問〕開催状況

開催年月日 令和3年3月12日(金)
 質問者 日本共産党 宮川 潤 議員
 答弁者 総務部長兼北方領土対策本部長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 知事の政治姿勢について (一) 2021年度予算等について 1 知事の施政方針について (4) スマート道庁の業務改革について 道政に臨む基本姿勢には、「スマート道庁の取組を通じ、改革を進める」としてありますが、業務改革では、業務をコアとノンコアに色分けし、コア業務に集中させ、ノンコア業務を外部委託し、公共サービスの産業化とその担い手を非正規労働に置き換えていくことにつながりかねません。住民サービスの質の確保のためにも、これ以上の業務の外部委託化は進めるべきではないと考えますが、いかがですか。</p> <p>【指摘】 スマート道庁に関し、業務をコアとノンコアに色分けする問題について、外部委託につながりかねないと質しましたが、答弁は「様々な手法」とし、「外部委託をする」とも「しない」とも言わないので、よく分からないものでありました。公務の外部委託は、低賃金で不安定な非正規労働を増やす公共サービスの産業化という問題であります。これ以上、進めるべきでないことを指摘しておきます。</p>	<p>(総務部長兼北方領土対策本部長) 令和3年度予算等に関し、まず、業務改革の取組についてでございますが、人口減少と高齢化の進行とともに、生産年齢人口の減少に伴う労働力不足などが見込まれる中、限られた人員のもと、今後の行政需要に的確に対応し、安定的で持続的な行政サービスを提供し続けていくことが必要でございます。 このため、道では、スマート道庁の取組を通じ、業務の効率化や省力化に向けて、定型的・反復的で作業量の多い事務を自動化する、RPAの導入といったICTの活用のほか、押印や添付書類の廃止など、様々な手法を用いながら、仕事の進め方の見直しに取り組んでいるところでございます。 こうした取組を継続的・積極的に進め、より多くの時間を生み出すことで、職員が地域や道民ニーズへの対応に加え、政策立案に直接繋がる業務に集中できる環境をつくり、行政サービスの一層の質の向上に繋げてまいりたいと考えてございます。</p>